

**平成23年度
日本短角種生産費調査
報告書**

平成24年2月

alic 独立行政法人農畜産業振興機構

はじめに

この報告書は、社団法人食品需給研究センターに委託して実施した平成23年度日本短角種生産費調査の成果を取りまとめたものである。

日本短角種は、放牧による低コスト生産に適した品種であり、中山間地域の畜産経営の一形態として、また、食料自給率の向上や地域経済・環境保全等において重要な位置づけにある。しかし、日本短角種牛肉の需要低迷などから子牛価格・枝肉価格が低下し、飼養農家戸数が減少し、飼養頭数も減少している。

このような状況下において、日本短角種については、その生産実態が十分に把握されていないことから、本調査は、日本短角種の子牛・肥育牛に関する生産費の調査結果を取りまとめたものである。

最後に、本調査の実施にあたって、ご協力いただいた調査対象農家、関係者各位に深甚の謝意を表する次第である。

本報告書が日本短角種の生産農家及び関係者に広くご活用いただければ今後における何らかの参考になれば幸いである。

平成24年2月

独立行政法人農畜産業振興機構

目 次

調査の目的と方法	1
利用上の留意点	2
〔要約版〕	
調査概要	3
1 子牛	3
2 肥育牛	4
〔詳細版〕	
I 調査結果	6
1 日本短角種の生産費	6
(1) 子牛生産費	6
(2) 肥育牛生産費	8
2 日本短角種の生産指標	10
(1) 繁殖経営	10
(2) 肥育経営	11
3 日本短角種の経営概要	12
(1) 繁殖経営	12
(2) 繁殖・肥育一貫経営	12
II 日本短角種の飼養動向と今後の課題	15
1 日本短角種の飼養動向	15
(1) 日本短角種の飼養動向	15
(2) 日本短角種の子牛価格動向	16
2 日本短角種の収益性	19
(1) 繁殖部門	19
(2) 肥育部門	21
3 日本短角種の特徴と生産流通の課題	23
(1) 日本短角牛肉の特徴・位置づけ	23
(2) 日本短角種の生産流通の課題	24
(3) 「日本短角種」の生産・販売戦略の再構築に向けて	24

調査の目的と方法

1 調査の目的

日本短角種については、農林水産省で実施されている統計調査において、生産実態が十分に把握されていないため、日本短角種の収益性等の検討に必要な資料の整備を図ることを目的として、子牛・肥育牛に関する生産費調査を実施したものである。

2 調査の内容

日本短角種の繁殖・肥育経営者 35 戸を対象として、農林水産統計に準じ、経営概況、生産コスト等について現地調査を行い、規模別に生産費をとりまとめた。

3 調査対象の選定

日本短角種の主産地は、岩手県、秋田県、青森県となっている。調査対象の選定にあたり、協力の得られる経営体を有意抽出して行ったものである。なお、経営体には、飼養農家、生産者団体（畜産農協）等が含まれている。

調査対象経営体数

- ・ 繁殖経営 : 16
- ・ 繁殖・肥育一貫経営 : 19

調査対象頭数

- ・ 子牛 : 204 頭
- ・ 肥育牛 : 604 頭

4 調査対象の期間

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの 1 年間

5 調査の方法

調査は、面接聞き取りにより実施した。

利用上の留意点

生産費の調査対象期間と算出方法

農林水産省の肉用牛生産費調査は、肥育牛のように生産期間が長期にわたるものについては、過年度の肥育期間開始時から経費の記録をもとに調査を行って、算出している。

しかし、本調査は、日本短角種の経営体における平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日）を対象として実施したものであり、もと牛や飼料価格、また、飼養頭数や販売頭数に大きな変動がある場合は、留意する必要がある。

肥育牛生産費： 肥育部門の生産費を当該年度肥育牛販売頭数で除して、1頭当たりの生産費を算出したものである。

子牛生産費： 繁殖部門の生産費を当該年度子牛販売頭数で除して、1頭当たりの生産費を算出したものである。

家族労働費

日本短角種に係わる家族労働時間に「毎月勤労統計調査」（厚生労働省）の建設業、製造業及び運輸業・郵便業に属する5～29人規模の事業所における賃金データ（都道府県単位）を基に算出した男女同一単価（当該地域で男女を問わず実際に支払われた平均賃金）を乗じて算出したものである。

調査概要

1 子牛

日本短角種の子牛1頭当たり生産費は、平成22年度は、275,453円となっている。内訳は飼料費が19.8%、労働費が39.3%、減価償却費が9.6%、放牧預託費（種付費含む）が7.2%、獣医師料・医薬品費が1.8%、その他が22.3%となっている。

なお、1頭当たりの所得は、16,253円となっている。前年度（27,804円）と比べて、生産費総額は減少したものの、子牛の販売価格が低下したため1頭当たりの所得は減少した。

平成22年度の1頭当たりの所得は、16,253円＝183,480円－（275,453円－108,226円）

1頭当たり所得は、粗収益（子牛販売価格）－（生産費総額－労働費）により算出

図1 日本短角種の子牛1頭当たり生産費の推移

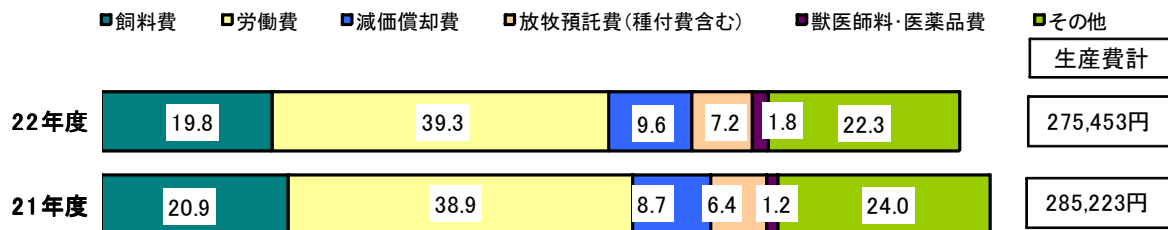


表1 日本短角種の子牛1頭当たり生産費の推移

単位：円

年度別	経営体数	計	飼料費			労働費	減価償却費		放牧預託費 (種付費含む)	獣医師料・医薬品費	その他	
			購入	自給	繁殖雌牛		繁殖雌牛					
22年度	17	275,453	54,639	41,450	13,188	108,226	26,406	7,128	19,734	5,082	61,365	
21年度	19	285,223	59,594	45,820	13,774	110,872	24,804	6,263	18,134	3,417	68,402	
飼養規模別	1～4頭	5	411,231	57,834	29,679	28,155	238,203	19,137	8,792	25,149	6,249	64,658
	5～9頭	7	399,520	55,536	33,530	22,006	192,779	48,800	11,807	34,922	8,854	58,629
	10頭以上	5	236,527	54,215	44,134	10,081	79,298	21,417	5,882	15,688	4,088	61,821

注1：飼養規模別は繁殖雌牛の飼養頭数である。生産費の計は、支払利子及び支払地代を含む。

注2：経営体数は繁殖経営16戸に繁殖・肥育一貫経営の繁殖部門1戸を加えた17戸である。以下、同様。

2 肥育牛

日本短角種の肥育牛1頭当たり生産費は、平成22年度は、624,547円となっている。内訳をみると、飼料費が40.2%、もと畜費が21.8%、労働費が15.2%、減価償却費が3.7%、その他が19.1%となっている。前年度と比べて、特にもと畜費が子牛価格の低下により減少している。

なお、1頭当たりの所得は、76,350円となっている。前年度（33,853円）と比べて、肥育牛の販売価格は低下したものの、もと畜費の減少が生産費総額を大きく押し下げたことから1頭当たりの所得は増加した。

平成22年度の1頭当たりの所得は、76,350円＝605,994円－（624,547円－94,903円）

1頭当たり所得は、粗収益（肥育牛販売価格）－（生産費総額－労働費）により算出

図2 日本短角種の肥育牛1頭当たり生産費の推移

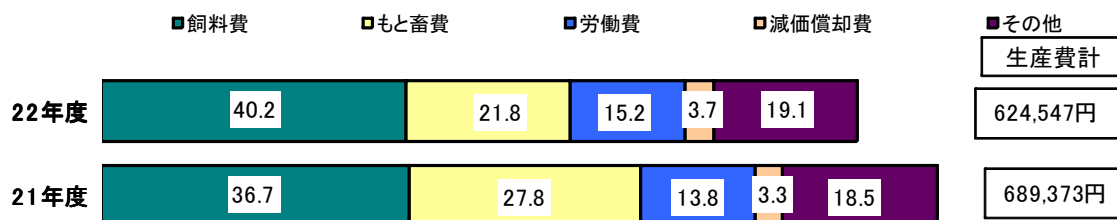


表2 日本短角種の肥育牛1頭当たり生産費の推移

単位：円

	経営 体数	計	飼料費		もと畜費	労働費	減価 償却費	その他		
			購入	自給						
年度別	22年度	19	624,547	250,783	230,382	20,401	136,368	94,903	22,957	119,536
	21年度	18	689,373	253,003	229,086	23,917	191,323	94,954	22,601	127,491
飼養規模別	1～10頭未満	2	637,677	153,660	102,237	51,424	116,229	180,895	10,461	176,431
	10～20頭	2	705,227	240,432	205,939	34,493	73,529	172,063	33,884	185,319
	20～30頭	3	697,783	250,598	209,691	40,907	172,975	129,857	29,461	114,892
	30～50頭	3	725,783	255,055	229,789	25,266	129,601	126,112	44,198	170,817
	50～100頭	5	580,927	243,771	227,971	15,800	100,775	98,537	20,709	117,135
	100頭以上	4	612,653	256,970	239,719	17,251	156,955	74,189	18,522	106,017

注：飼養規模別は肥育牛の飼養頭数である。生産費の計は、支払利子及び支払地代を含む。

I 調査結果

1 日本短角種の生産費

(1) 子牛生産費

日本短角種の子牛1頭当たり生産費は、平成22年度は、275,453円となっている。内訳は飼料費が19.8%、労働費が39.3%、減価償却費が9.6%、放牧預託費（種付費含む）が7.2%、獣医師料・医薬品費が1.8%、その他が22.3%となっている。

なお、1頭当たりの所得は、16,253円となっている

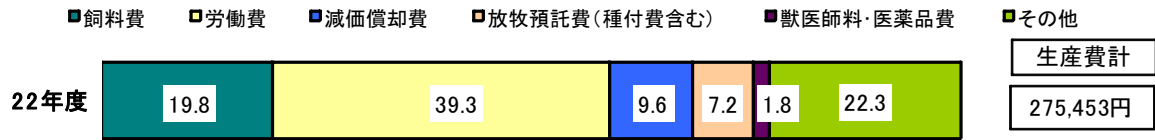
表3 日本短角種 子牛の生産費（出荷販売1頭当たり）

	経営 体数	計	購入 飼料費	自給飼料費			放牧預託 費（種付 費含む）		
				種苗費	肥料費	稲わら等			
22年度	17	275,453	41,450	13,188	3,109	8,903	1,176	19,734	
飼養 規模 別	1～5頭未満	5	411,231	29,679	28,155	10,328	9,927	7,900	25,149
	5～10頭	7	399,520	33,530	22,006	6,264	13,611	2,132	34,922
	10頭以上	5	236,527	44,134	10,081	1,878	7,691	513	15,688

つづき 日本短角種 子牛の生産費（出荷販売1頭当たり）

	経営 体数	機械用燃 料・油費	減価償却費			生産 管理費	修繕費		
			家畜	建物・ 構造物	機器具・車 輛				
22年度	17	5,260	26,406	7,128	6,201	13,077	1,671	11,222	
飼養 規模 別	1～5頭未満	5	9,478	19,137	8,792	4,420	5,925	1,972	14,452
	5～10頭	7	6,427	48,800	11,807	11,688	25,306	2,958	9,120
	10頭以上	5	4,706	21,417	5,882	4,979	10,556	1,339	11,527

図3 日本短角種 子牛の生産費（出荷販売1頭当たり）



単位：円

獣医師料・ 医薬品費	敷料費		労働費			光熱 水道費	
	購入	自給	雇用	家族			
5,082	6,815	6,102	714	108,226	5,031	103,195	5,380
6,249	3,560	1,400	2,160	238,203	3,840	234,363	9,552
8,854	2,961	1,539	1,421	192,779	4,737	188,042	4,287
4,088	7,963	7,514	449	79,298	5,179	74,119	5,378

小農機具 費	消耗諸材 料費	賃料料金・ その他	租税公課・ 諸負担	支払利子	支払地代
2,409	4,310	9,857	12,622	1,225	594
1,994	3,925	5,190	14,534		
3,093	6,660	8,698	14,404	21	
2,270	3,762	10,438	12,065	1,597	777

(2) 肥育牛生産費

日本短角種の肥育牛1頭当たり生産費は、平成22年度は、624,547円となっている。内訳をみると、飼料費が40.2%、もと畜費が21.8%、労働費が15.2%、減価償却費が3.7%、その他が19.1%となっている。

なお、1頭当たりの所得は、76,350円となっている。

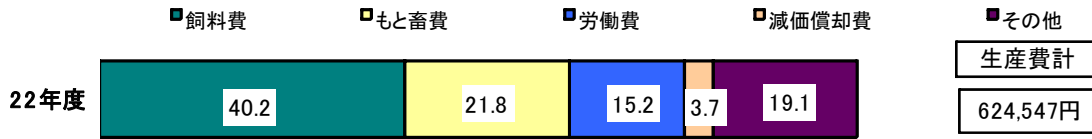
表4 日本短角種 肥育牛の生産費（出荷販売1頭当たり）

	経営 体数	計	購入 飼料費	自給飼料費			獣医師料・ 医薬品費		
				種苗費	肥料費	稲わら等			
22年度	19	624,547	230,382	20,401	5,546	14,325	530	6,116	
飼養規模別	1～10頭未満	2	637,677	102,237	51,424	17,530	33,893		5,177
	10～20頭	2	705,227	205,939	34,493	6,627	27,867		9,659
	20～30頭	3	697,783	209,691	40,907	10,704	30,203		1,726
	30～50頭	3	725,783	229,789	25,266	5,500	19,767		7,037
	50～100頭	5	580,927	227,971	15,800	4,309	11,491		3,789
	100頭以上	4	612,653	239,719	17,251	5,105	11,065	1,081	7,832

つづき 日本短角種 肥育牛の生産費（出荷販売1頭当たり）

	経営 体数	減価償却費			生産 管理費	修繕費	小農機具 費	消耗諸材 料費	
		建物・ 構造物	機器具・車 輛						
22年度	19	22,957	8,129	14,828	4,052	12,395	2,490	8,872	
飼養規模別	1～10頭未満	2	10,461	10,341	120		1,714	7,069	28,588
	10～20頭	2	33,884	24,011	9,873	6,088	33,015	12,082	19,439
	20～30頭	3	29,461	336	29,125	4,266	8,077	1,860	14,706
	30～50頭	3	44,198	15,849	28,349	9,560	23,659	6,757	8,953
	50～100頭	5	20,709	6,819	13,890	5,441	11,121	2,209	10,464
	100頭以上	4	18,522	7,612	10,909	2,040	10,595	1,221	5,896

図4 日本短角種 肥育牛の生産費（出荷販売1頭当たり）



単位：円

敷料費	労働費		もと畜費	光熱水道費	機械用燃料・油費	
	雇用	家族				
11,632	94,903	28,520	66,383	136,368	9,032	10,837
4,571	180,895		180,895	116,229	8,254	8,254
5,206	172,063	1,824	170,239	73,529	14,494	14,494
21,634	129,857	792	129,066	172,975	6,248	12,614
16,790	126,112	13,934	112,177	129,601	12,277	16,703
14,900	98,537	34,006	64,531	100,775	7,750	9,964
7,550	74,189	34,986	39,203	156,955	9,278	9,708

賃料料金・その他	租税公課・諸負担	支払利子	支払地代
32,400	11,931	5,925	3,854
34,780	20,377	27,931	29,716
37,177	21,243	3,009	9,412
18,025	19,415	5,190	1,130
37,870	19,169	7,014	5,029
27,472	13,452	6,794	3,779
36,186	7,592	4,954	3,167

2 日本短角種の生産指標

(1) 繁殖経営

日本短角種の平成 22 年度における子牛販売価格は、平均 183,480 円となっており、前年度対比でかなりの程度低下している。また、生体重は平均 253.4kg、出荷月齢は 7.5 カ月となっている。

成雌牛 1 頭当たりの年間出荷頭数は 0.89 頭となっている。

表5 日本短角種の繁殖経営の指標

		経営 体数	成雌牛1頭 当たり年間 子牛出荷 頭数 頭	子牛1頭当たり		
				販売価格 円	生体重 kg	出荷月齢 月
年度 別	22年度	17	0.89	183,480	253.4	7.5
	21年度	19	0.93	202,155	251.5	7.3
飼養 規模 別	1～4頭	5	0.83	144,680	278.6	8.1
	5～9頭	7	0.80	128,152	244.8	7.1
	10頭以上	5	0.92	199,696	253.9	7.5

注：飼養規模別は、繁殖雌牛の飼養頭数である。

（２）肥育経営

日本短角種の平成 22 年度における肥育牛販売価格は、平均 605,994 円となっており、前年度対比でやや低下している。また、もと畜の購入金額は 182,007 円で前年度対比で大幅に低下している。なお、生体重は平均 686.0kg、出荷月齢は 28.7 カ月で、前年度から月齢が延びて、体重が増加した。枝肉単価は 1,420 円/kg となっている。

表6 日本短角種肥育経営の指標

	経営 体数	年間出荷 頭数	出荷肥育牛1頭当たり								
			販売価格 円	生体重 kg	出荷月齢 月	枝肉重量 月	枝肉単価 円/kg	もと畜の 月齢 月	もと畜の 生体重 月	もと畜の 購入金額 月	
年度別	22年度	19	31.9	605,994	686.0	28.7	426.8	1,420	7.9	240.9	182,007
	21年度	18	33.2	628,272	684.8	27.9	430.7	1,459	7.6	237.5	238,373
飼養規模別	1～10頭未満	2	3.5	535,994	570.6	28.4	369.0	1,453	7.6	244.3	218,857
	10～20頭	2	8.5	565,559	648.5	29.0	396.6	1,426	8.0	237.6	128,104
	20～30頭	3	16.0	633,886	702.4	29.1	422.9	1,499	8.0	250.0	224,542
	30～50頭	3	20.3	614,469	648.0	29.3	427.3	1,438	8.0	253.6	198,699
	50～100頭	5	35.0	588,036	692.3	29.2	425.4	1,382	8.0	239.1	172,004
	100頭以上	4	74.5	614,263	692.3	28.2	431.2	1,424	7.7	238.0	179,822

注：飼養規模別は、肥育牛の飼養頭数である。

3 日本短角種の経営概要

(1) 繁殖経営

平成 22 年度日本短角種の繁殖経営の概要は、16 経営体についてみると、成雌牛飼養頭数が 8.5 頭となっている。飼養規模別にみると、1～4 頭が 5 戸、5～9 頭が 7 戸、10 頭以上が 4 戸となっている。

肉用牛部門のうち、日本短角種の収入についてみると、平均 1,016 千円となっており、前年度と比べて減少している。これは、子牛価格の下落による影響が大きいと考えられる。飼養規模別にみると、1～4 頭が 289 千円、5～9 頭が 714 千円、10 頭以上が 2,453 千円となっている。

また、肉用牛部門に占める日本短角種の割合は、きわめて高いことが特徴である。

表7 日本短角種繁殖経営の概要

	経営体数	成雌牛飼養頭数 頭	農業従事人数		経営耕地面積 アール	牧草地 アール	肉用牛部門収入		
			家族 人	雇用 人			千円	短角牛 千円	
年度別	22年度	16	8.5	2.3	0.4	237	249	1,301	1,016
	21年度	17	8.0	2.5	0.1	222	156	1,451	1,265
飼養規模別	1～4頭	5	2.4	2.4	0.6	84	214	921	289
	5～9頭	7	6.9	2.3	0.1	409	98	914	714
	10頭以上	4	18.9	2.3	0.5	127	556	2,453	2,453

注:飼養規模は、繁殖雌牛の飼養頭数である

(2) 繁殖・肥育一貫経営

平成 22 年度日本短角種の繁殖・肥育一貫経営の概要は、19 経営体についてみると、飼養頭数は、成雌牛が 28 頭、肥育牛が 68 頭となっており、成雌牛に比べて肥育牛の頭数が多い。飼養規模別にみると、成雌牛 10 頭以上では、飼養頭数は成雌牛が 37 頭、肥育牛が 82 頭と規模が大きくなっている。

肉用牛部門のうち、日本短角種の収入についてみると、平均 22,419 千円となっている。成雌牛飼養規模別にみると、1～4 頭が 8,838 千円、5～9 頭が 19,528 千円、10 頭以上が 26,506 千円となっている。

また、繁殖経営と同様に肉用牛部門に占める日本短角種の割合は、高いことが特徴である。

表8 日本短角種繁殖肥育一貫経営の概要

		経営 体数	成雌牛 飼養頭数 頭	肥育牛 飼養頭数 頭	農業従事人数		経営耕地 面積 アール	牧草地 アール	肉用部門収入	
					家族 人	雇用 人			千円	短角牛 千円
年度別	22年度	19	28	68	2.3	1.0	399	1,555	28,475	22,419
	21年度	12	27	50	1.7	0.9	430	1,390	22,929	18,401
飼養規模別	1～4頭	4	3	21	2.5	0.5	196	251	8,921	8,838
	5～9頭	1	7	63	1.0	1.0	600	350	19,528	19,528
	10頭以上	14	37	82	2.3	1.1	443	2,014	34,701	26,506

注: 飼養規模は、繁殖雌牛の飼養頭数である



いわて牛ホームページより

Ⅱ 日本短角種の飼養動向と今後の課題

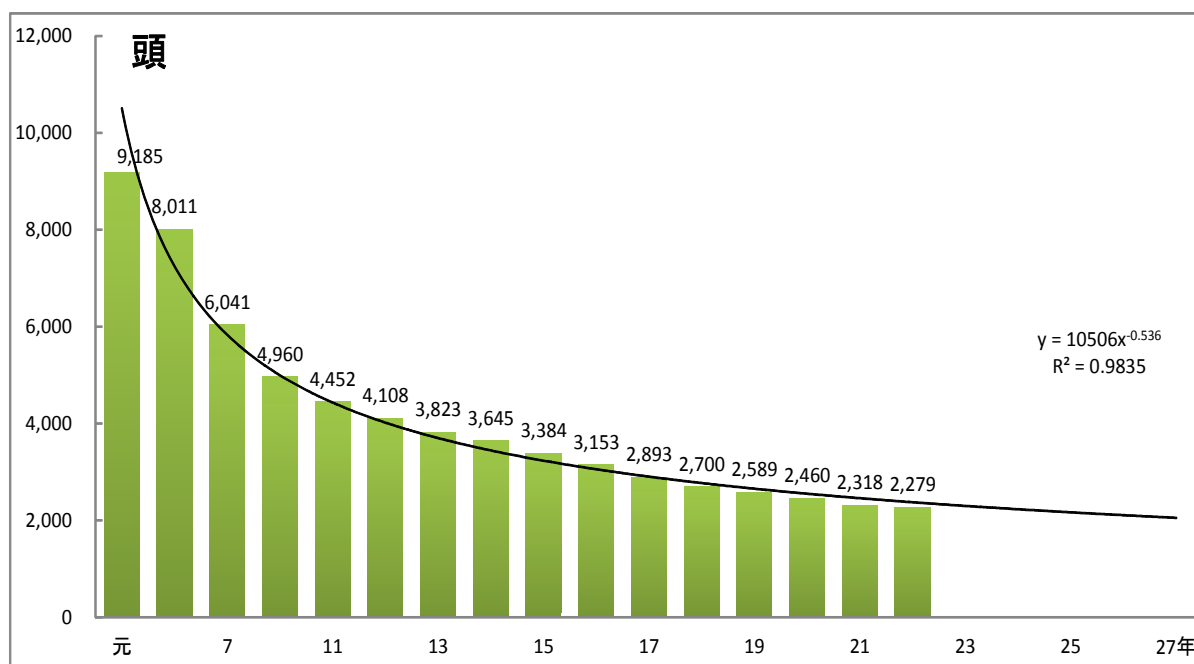
1 日本短角種の飼養動向

(1) 日本短角種の飼養動向

日本短角種の主産地である岩手県における繁殖雌牛の飼養頭数は、平成元年には 9,185 頭であったが、年々減少し、平成 22 年には 2,279 頭と激減している。減少要因は、長期トレンドとしては、自由化以降の輸入牛肉の需要拡大び国産牛肉では和牛へのシフトがあげられる。

このような市場環境のなかで、今後の日本短角種の飼養頭数の増加は現状ではきわめて難しいものとみられる。

図5 岩手県における短角種繁殖雌牛の飼養頭数の推移

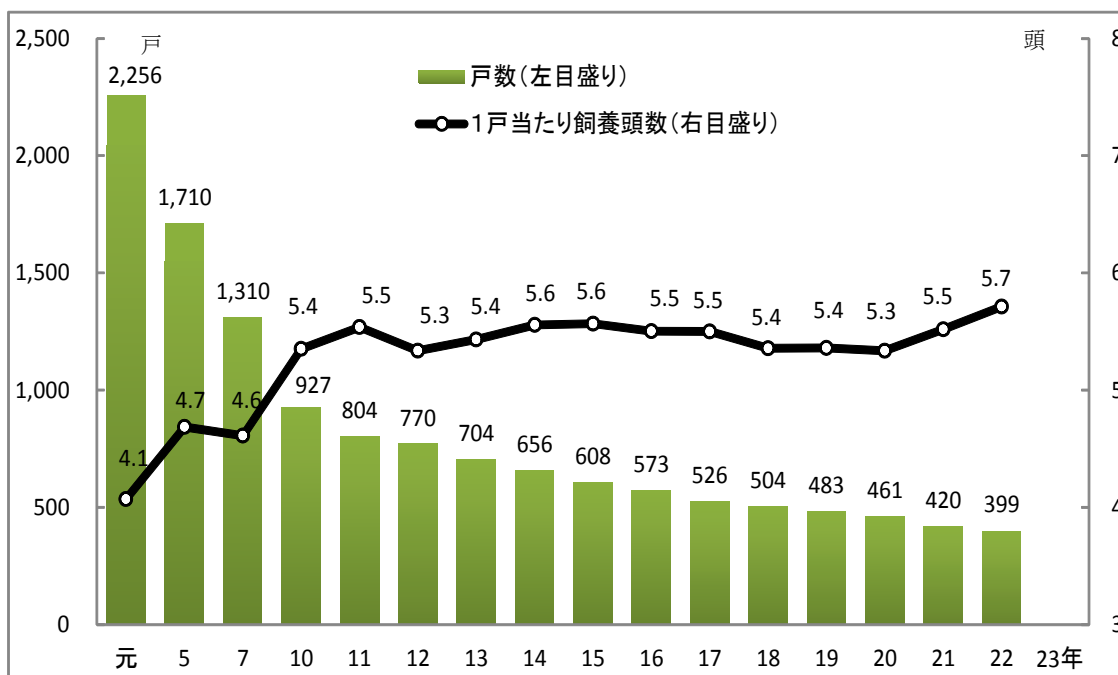


資料：岩手県畜産課

次に、岩手県における日本短角種の飼養戸数についてみると、年々減少しており、平成 22 年は 399 戸と激減している。

一方、1 戸当たりの飼養頭数は、平成 22 年は 5.7 頭で、緩やかに増加しているものの、他の肉用牛の飼養規模に比べて伸び率が低い。これは放牧主体の飼養形態であることに起因しており、また、子牛販売において他の肉用牛との価格差が大きいことがあげられる。

図6 岩手県における短角牛繁殖雌牛の飼養戸数と1戸当たり飼養頭数の推移

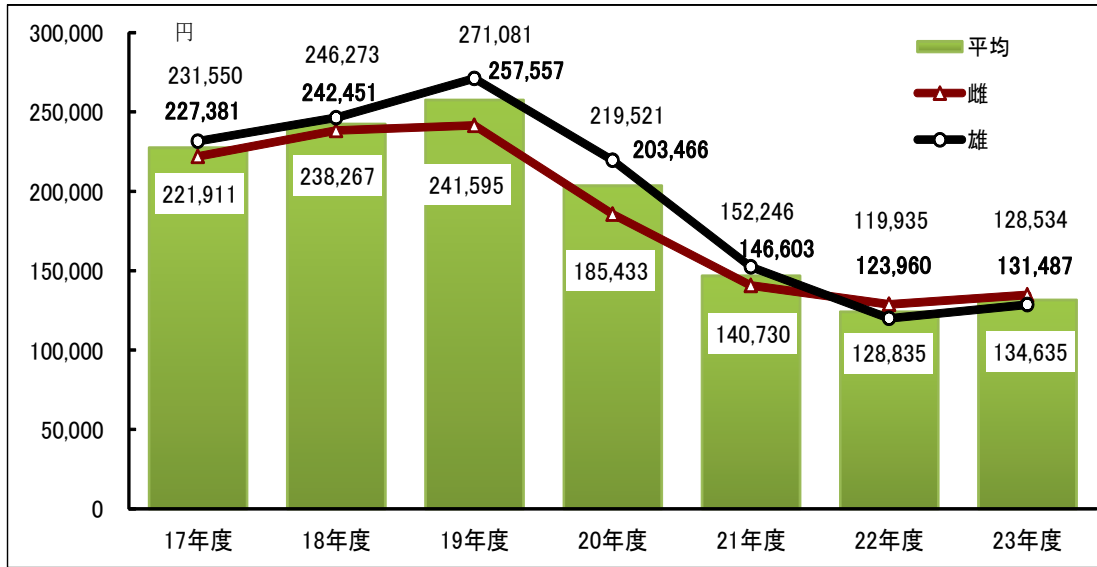


資料：岩手県畜産課

(2) 日本短角種の子牛価格動向

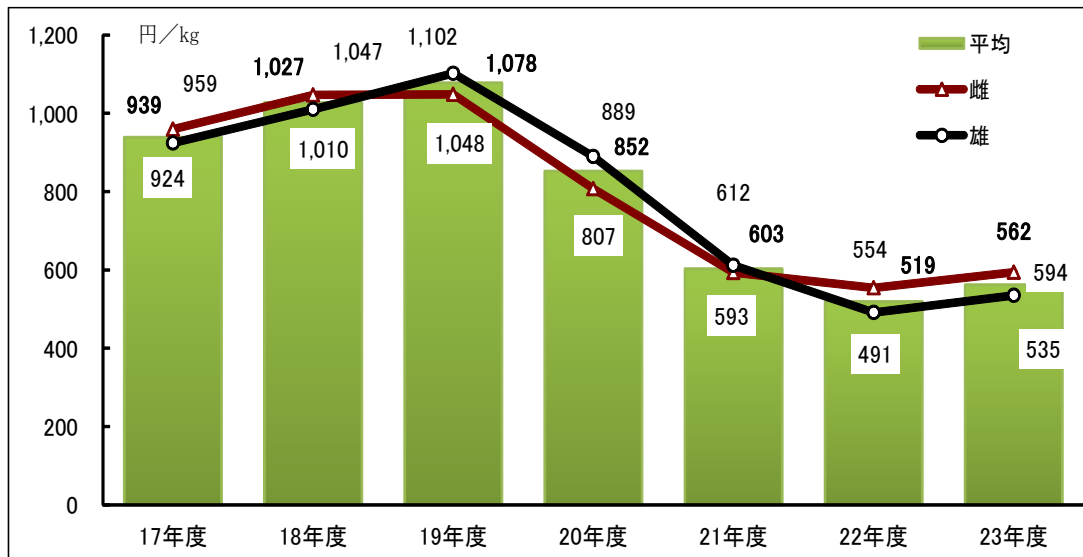
家畜市場における日本短角種子牛1頭当たり取引価格は、平成23年度(4月～12月計)が131,487円で対前年度比6.1%上昇した。しかし、ピークの平成19年度の257,557円と比べて▲48.9%の下落となっている。特に平成20年度以降は世界的経済危機の影響とその後の景気回復の遅れ、また、平成23年3月の東日本大震災の大打撃から、牛肉全体の需要低迷が要因と考えられる。

図7 日本短角種子牛価格の推移



資料: 独立行政法人農畜産業振興機構 注: 平成23年度は4月から12月までの計

図8 日本短角種子牛価格の推移 (生体1kg当たり)



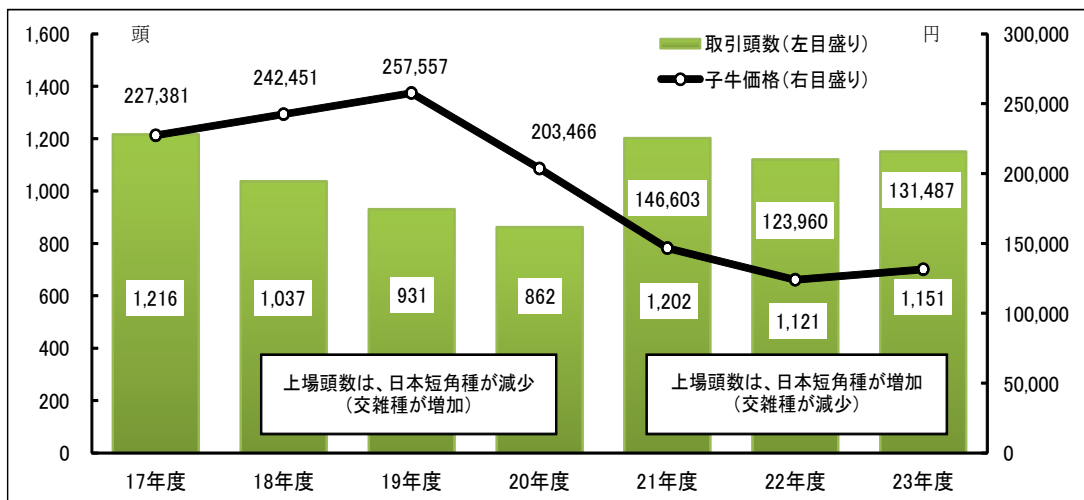
資料: 独立行政法人農畜産業振興機構 注: 平成23年度は4月から12月までの計

次に家畜市場における日本短角種の取引成立頭数についてみると、平成 23 年度は 1,151 頭で対前年度比で 2.7 % 増加している。一方、取引価格は対前年度比で 6.1 % 上昇している。

取引成立頭数は平成 17 年度から平成 20 年度まで減少傾向で推移したものの、平成 21 年度には 1,202 頭に回復。子牛価格は平成 19 年度をピークに下落している。

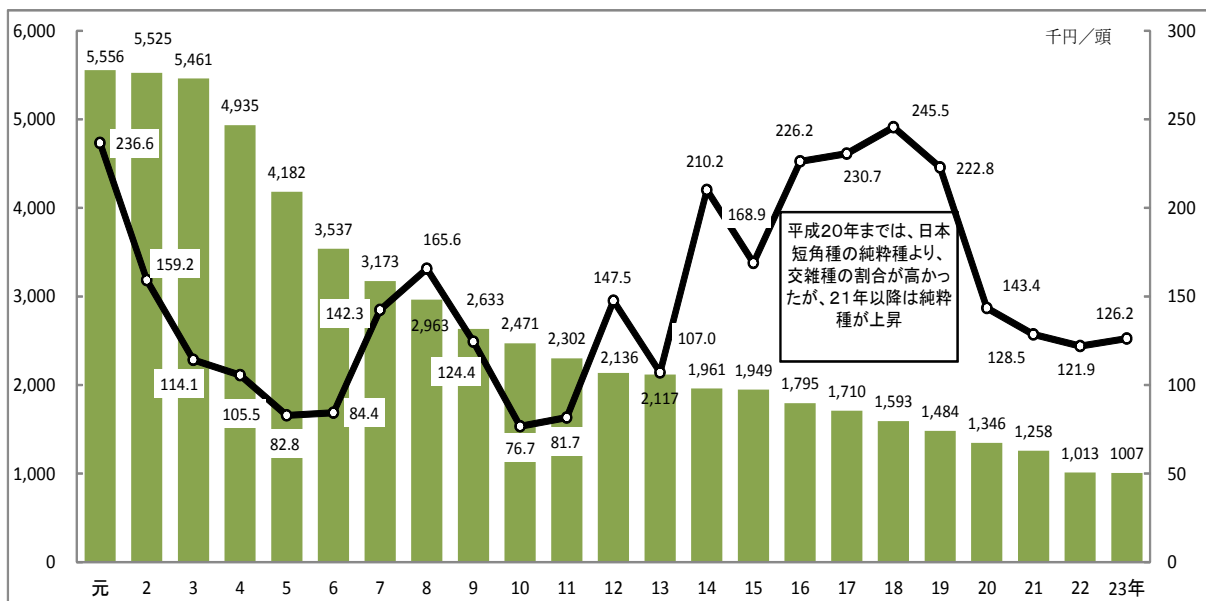
日本短角種の繁殖経営において、近年、交雑種（日本短角種繁殖雌牛と和牛種雄牛の交配種であり、放牧による自然交配が主体）の方が純粋種に比べて取引価格が高いことから、純粋種の出荷頭数を上回っていた。しかし、平成 20 年度以降、交雑種の需要減少に伴い、その出荷頭数が減少し、逆に純粋種への回帰が顕著となっている。

図9 日本短角種の子牛価格と取引成立頭数の推移



資料: 独立行政法人農畜産業振興機構 注: 平成23年度は4月から12月までの計

図10 岩手県における日本短角種（交雑種含む）の家畜市場上場頭数と価格の推移



資料: JA全農いわて県本部

2 日本短角種の収益性

(1) 繁殖部門

繁殖部門の子牛販売における収益を規定するのは、子牛販売価格と経費である。経費のうち、特にウエイトの大きいのは飼料費、次いで減価償却費、放牧預託費及び種付費である。

子牛販売価格は、平成 19 年度の 257,557 円の高値から、平成 23 年度の 131,487 円まで下落が顕著となっており（図 5 参照）、繁殖経営の収益が急激に悪化していることが予想される。

繁殖経営は特に子牛販売価格により、収益が左右されることから、ここでは、子牛販売価格の変動を 3 つのパターンに分けて、1 頭当たりの経営収支について試算してみることにする。なお、生産費の各経費は同一として算出した。

ケース 1 の子牛販売価格が 120 千円の場合、所得が▲ 47.2 千円で労働費は全額確保されていない。ケース 2 の子牛価格 200 千円の場合、所得が 32.8 千円となっているものの、労働費は一部しか確保されていない。ケース 3 で子牛価格が 250 千円の場合、所得が 82.8 千円で労働費はかなり確保されることになる。

直近の子牛販売価格が 12 ～ 13 万円程度となっており、この場合、労働費は全額確保されない状況にあり、繁殖農家の経営意欲の低下が懸念される。

今後は、日本短角種牛肉の需要回復による子牛価格の一段の上昇と繁殖経営のコスト削減の取組が課題といえる。

図11 **ケース 1 子牛販売価格が120千円の場合の収益性**

1頭当たりの所得は▲47.2千円

1頭当たりの収支は、これに労働費108.2千円を加えて▲155.4千円と赤字

単位：千円

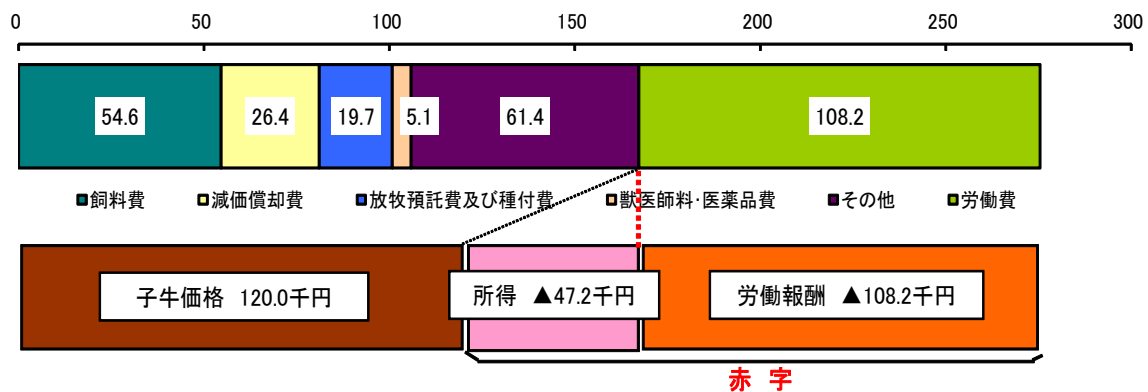


図12 ケース2 子牛販売価格が200千円の場合の収益性

1頭当たりの所得は32.8千円

1頭当たりの収支は、労働費分▲75.5千円と赤字

単位：千円

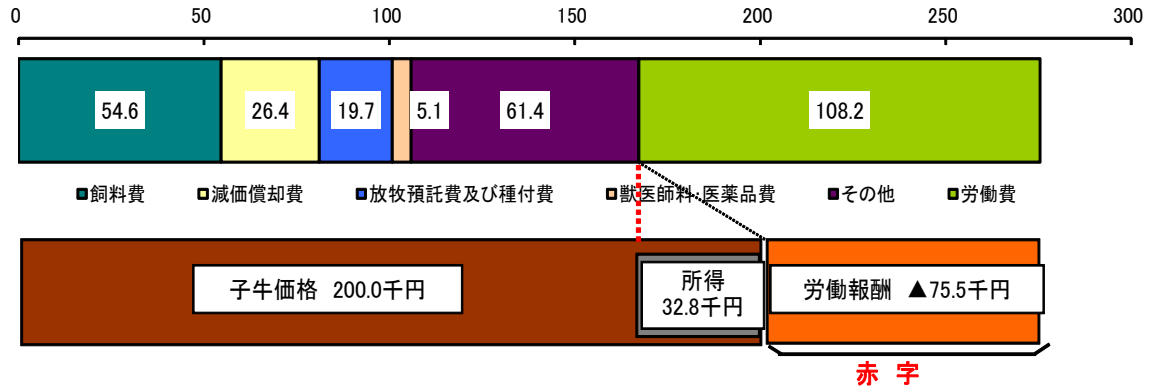
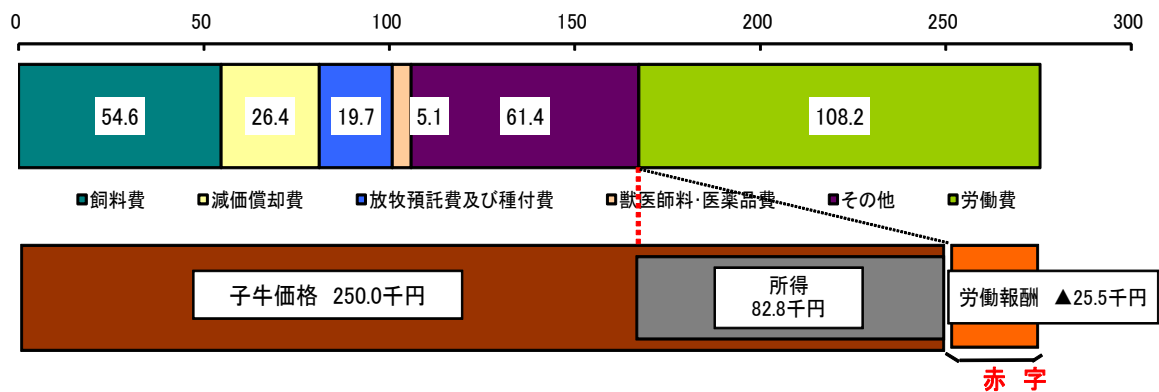


図13 ケース3 子牛販売価格が250千円の場合の収益性

1頭当たりの所得は82.8千円

1頭当たりの収支は、労働費分▲25.5千円と赤字

単位：千円



(2) 肥育部門

肥育経営において収益を規定するのは、肥育牛販売価格と経費のうち、特にウエイトの大きい飼料費ともと畜購入価格、以下、減価償却費等である。

肥育牛販売価格は、本調査の事例では平成 22 年度において、550 千円から 650 千円の範囲となっている（表 4 参照）。この枝肉単価をみると、1kg 当たり 1,350 円から 1,500 円の範囲であり、同時期の和牛去勢 A 2 から A 3 の水準となっている。

ここでは経営収益に影響の大きい肥育牛販売価格及びもと畜購入価格を 3 つのパターンに分けて、1 頭当たりの経営収支について試算してみることにする。なお、その他の生産費の各経費は同一として算出した。また、肥育牛販売価格は和牛去勢 A 2 の枝肉単価の水準で、550 千円から 600 千円に設定した。

「もと畜価格が 120 千円・肥育牛販売価格が 550 千円」では所得が 36.7 千円で、労働費は一部しか確保されていない。「もと畜価格が 200 千円・肥育牛販売価格が 550 千円」では所得が▲ 43.3 千円、「もと畜価格が 250 千円・肥育牛販売価格が 600 千円」では所得が▲ 43.3 千円となっており、労働費は全額確保されていない。

ケース 1 は、日本短角種肥育牛の低コストモデルといえるが、子牛販売価格が 12 万円では繁殖経営の再生産が困難であることから、現状ではかなり厳しい状況である。

ケース 3 は、もと畜価格が 250 千円・肥育牛販売価格が 600 千円であり、現状では大幅な赤字であるが、この水準で利益が確保されるような低コスト経営が課題といえる。

図14 ケース1 もと畜購入価格が120千円・肥育牛販売価格が550千円の場合の収益性

1頭当たりの所得は36.7千円

1頭当たり収支は、労働費分▲58.2千円と赤字

単位：千円

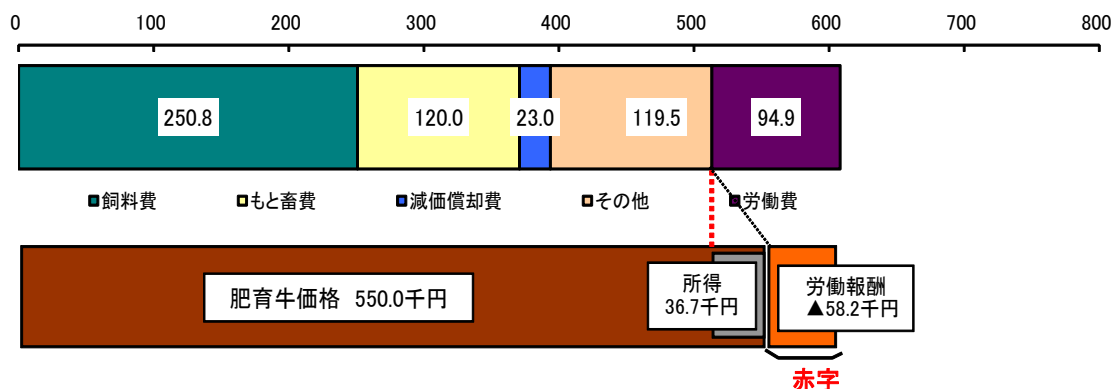


図15 ケース2 もと畜購入価格が200千円・肥育牛販売価格が550千円の場合の収益性

1頭当たりの所得は▲43.3千円

1頭当たり収支は、これに労働費94.9千円を加えて▲138.2千円と赤字

単位：千円

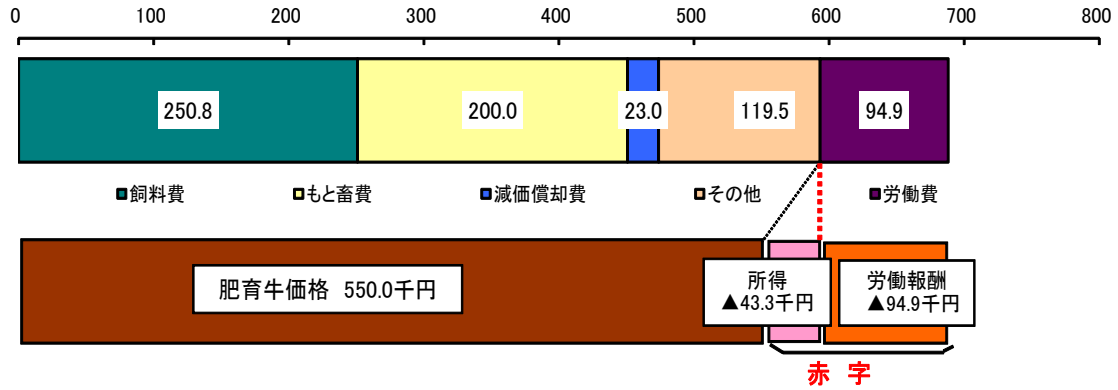
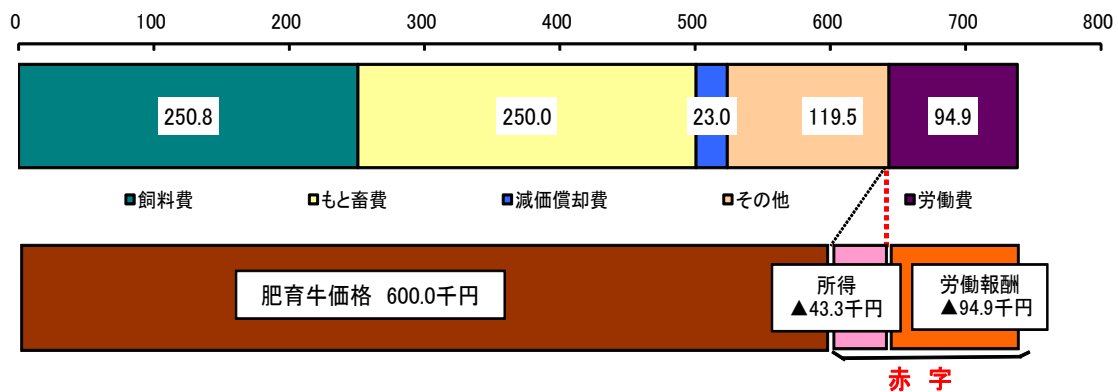


図16 ケース3 もと畜購入価格が250千円・肥育牛販売価格が600千円の場合の収益性

1頭当たりの所得は▲43.3千円

1頭当たり収支は、これに労働費94.9千円を加えて▲138.2千円と赤字

単位：千円



3 日本短角種の特徴と生産流通の課題

日本短角種の生産費調査において、産地の生産者、家畜市場関係者、生産者団体からのヒアリング、また、牛肉の需要構造の変化を踏まえ、生産流通の現状と課題について整理したものである。

(1) 日本短角牛肉の特徴・位置づけ

短角牛肉の
特徴

長所

- ・ おいしい、肉のうま味が深い、飽きない
- ・ 赤身なので和牛に比べてヘルシー
- ・ 自然志向・本物志向
- ・ 希少価値(供給量がきわめて少ない)

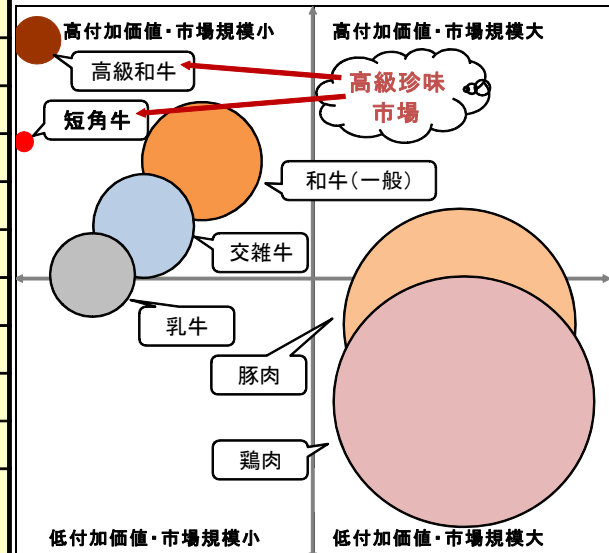
課題

- ・ 通年供給が難しい
- ・ 色、見栄えが悪い、ロイン系以外の部位は肉が固い
- ・ ステーキや焼肉(ロイン系)以外の調理方法が課題

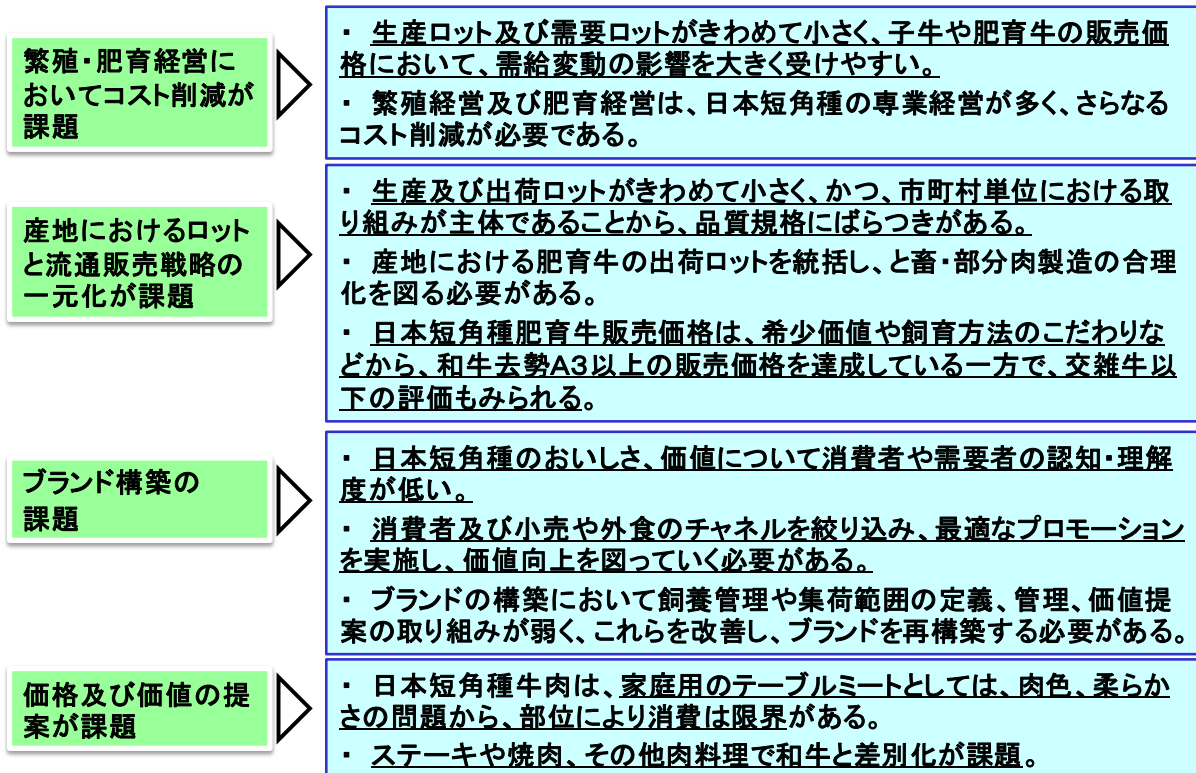
短角牛の位置づけ

	高級和牛	短角牛
消費量	1人年間 350g	1人年間 0~g
小売価格	1,000~3,000円	500~1,500円
外食	5,000~15,000円	2,000~7,000円
認知度	高い	低い
リピーター	支持層が幅広い	通好み・プロ好み
味わい	脂のうま味・食感	うま味が深い
嗜好	特別なごちそう	未知数
カロリー	高カロリー	低カロリー
ライフスタイル	高級グルメ志向	自然・本物志向
その他	満足度高いが飽きやすい	希少価値

短角牛の位置づけ(概念図)



(2) 日本短角種の生産流通の課題



(3) 「日本短角種」の生産・販路戦略の再構築に向けて

